

地域回想法

自治体情報 愛知県北名古屋市

人口 / 82,260人 標準財政規模 / 15,265百万円

- 担当課** 福祉部 高齢福祉課
- 電話番号** 代表 0568-22-1111
- 実施主体** 北名古屋市
- 関連ホームページ** <http://www.city.kitanagoya.lg.jp/kaisouhou/>
- 事業期間** 平成14年度から
- 関係施策分類** ①、⑦

予算関連データ

総事業費：9,661千円

名称	所管	金額(千円)
介護保険法に基づく地域支援事業交付金	国	1,998
介護保険法に基づく地域支援事業交付金	愛知県	999
社会保険支払基金	-	2,318
一般財源	-	4,346

施策のポイント

高齢者を対象とし、昔懐かしい生活用具などを用いて、楽しみながら過去の体験を語り合うことで脳を活性化させ、気持ちを元気にする心理療法を回想法といい、これを介護予防事業にとり入れることで、高齢者のQOL（生活の質）を上げていく事業である。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

平成14年度に厚生労働省の補助事業「介護予防拠点整備事業」を活用して回想法センターを設立し、「老人保健事業推進費等補助金」を活用して回想法スクールを展開した。

2. 取組の具体的内容

国登録有形文化財「旧加藤家住宅」内に設置した回想法センターで、回想法スクールをはじめとした回想法の実践、普及および情報発信を行っている。また、昭和の生活史の博物館として全国的に知られている昭和日常博物館と連携し、昭和の暮らしを再現した懐かしさあふれる展示品を見学することで体感できる「おでかけ回想法」を行うとともに、博物館の収蔵物をテーマごとにまとめて箱に詰め、全国の地方自治体、福祉施設、医療施設等に貸し出す「回想法キット貸出事業」なども展開している。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

(1) 施策の目標

虚弱高齢者の減少 寝たきり、認知症高齢者の減少 要支援、要介護認定者の減少 医療費、介護保険給付額の軽減

(2) 参加者の効果は、次に掲げる手法を用いて効果を測定する。

認知に関する測定・・・ファイブコグ ADLの測定・・・SF-36

(3) その他、満足度、行動的な側面、QOLなど、様々な測定手法を用いて事業効果を測定する。

4. 現在までの実績・成果

平成14年度に実施した回想法スクールで、参加者に行った効果測定では、認知能力やうつ傾向の改善、介護負担の軽減など、様々な面で有意義な結果が得られた。平成22年11月には、回想法シンポジウムを北名古屋市文化勤労会館で開催し、全国から1300名の来館者があった。平成24年10月には「地域回想法10周年記念事業」として温故知新フェスタを全国に呼びかけて開催予定。10年誌も発行予定。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

回想法は認知症の方のためのものであるという誤った認識（認知症＝回想法）を払拭するため、機会あるごとに介護予防としての事業であることを説明している。

また、男性の参加者数を上げるための工夫として、男性限定の回想法スクールを行っている。

6. 今後の課題と展開

無縁社会が社会問題になっている昨今、希薄になっている地域や家族の連帯を強めるためには、高齢者の尊い知識、経験を生かすことが必要である。そこで回想法を軸に、世代間交流や地域の人々との交流事業を展開して、高齢者が社会の中で尊ばれる存在となり、尊厳を持って人生を全うできるようにしたいと考える。